



この度の米国ハワイ州マウイ島における山火事被害により犠牲となられた方々のご冥福をお祈りし、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

天台宗総本山 比叡山延暦寺

まだ厳しさが残る陽射しのなか稲刈りに勤む山麓仰木のの人々

元三大師御誕生会にご寶前で願う

今年の夏は気象庁によると過去一二年で最も暑くなったようです。比叡山麓は未だ酷暑のなかですが、すでに稲刈りが進み、実りの季節を迎え始めました。

今年も横川の四季講堂では、元三大師御誕生会が九月三日に執り行われ、比叡山中興の祖、慈慧大師良源さまへの報恩と、そのご加護を祈る人々が横川に集い、一日祈りが捧げられました。

法要の間にはご信徒による音楽や舞楽の奉納が行われ、午前中には村上天皇の御願により康保四年(九六七)に始められた「四季講」(秋期)法華八講が行われました。午後には大師がこの世へ御誕生・出現されたことを祝し、御本地如意輪観音を供養する「如意輪曼荼羅供」が修され、報恩と共に玉体安穩、天下泰平、厄難消除、善願成就が祈られました。また黄昏にはご信徒の回向法要「天恵講」が、続いて所願成就のための「不動護摩供」が修されました。

堂内の宮殿には「慈慧大師御真影」がこの日と、正月三日の「元三会」、四月十八日の「御影供」に特別に奉懸されます。御真影は尋禪和尚が大師の影を写したと伝え、元龜兵難の際には、時の大師堂の執事福成坊俊存により動座され、御真影を先頭に多くの住僧が仰木口の豊臣秀吉公の陣に逃れました。御真影は戦乱の中にあっても多くの方によって護られ、天正十四年(一五八六)坂本城主の浅野長政公の扶けにより帰山し、徳川家康公が御真影を安置する堂を建て、翌年再興第一回の元三会を勅会として行う手はずを整え執行しました。

大師は、律令制度が崩壊し国・社会のあり方が大きく変化した十世紀に活躍し、第十八代天台座主も勤め比叡山の修行と学問の制度を整備され、恵心僧都源信や性空上人など門下三千とも云われる多くの弟子を育成されました。大師は次のような和歌を残されています。

憂きことは 世に住むほどの ならいよと
 思いも知らで なに歎くらん

今の世の中、人の営みや自然環境の変化がいよいよ大きく極端になったように感じます。古来より日本に生きる人びとは、四季折々の自然の美しさや、人の営みに互いに感謝し畏敬の念を持ち、時に手を合わせ、時には和歌を詠み想いをあわしました。

変化するものと変わらずにあるものを正しく見据え、悪しきこともよきことも「無常」常ならずと前向きにとらえ、未来を受け継ぐ子どもたちの声が夏の野山や学び舎に元気に響き続けることを、一千年余りの時代を見守ってこられた大師のご寶前で願いました。



発行所
 比叡山時報社
 比叡山延暦寺事務所
 〒520-0116 大津市坂本本町4220
 電話 077-578-0001
 振替 00970-2-9732
 定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会
会報
 年度会費(3000円)中に会報(比叡山時報)購読料を含む。

令和5年比叡山から
 発信する言葉
 眞の心を開き発す
 眞心 眞言



ホームページから

ご購入は延暦寺

